



熊本県 島崎征夫部長

熊本県天草地域を中心に運航する天草エアライン（AMX）は、2016年2月に新機材を導入しました。1機の航空機を最少人員で運営しているAMXは、機材更新にあたり、当初半年以上の運航休止を余儀なくされる状況にありましたが、鹿児島県奄美群島を中心に運航する日本エアコミューター（JAC）との協業によって、生活の足が途切れることなく円滑に機材更新を完了させることができました。この2社の地域航空会社間の協業はどのように実現したのか、またAMXの筆頭株主である熊本県は地域航空会社間の協力関係に関してどのようにお考えか、お三方にお話を伺いました。

—— 今回の協業の発端についてお聞かせください。

島崎部長 ● JALグループは、国内はもちろんグローバルにも展開されており、多くの知見や幅広い経験をお持ち

安嶋社長（JAC） ● JACはもともと奄美大島で創業し、離島の生活を支える地域航空会社としてのDNAを持った会社だということが根本にあります。私たちのお客さまにも、医療関係者や製薬業界の方が大勢おられて、運休になると、患者さんとそのご家族の生活やビジネスなどに多大な影響が及ぶということを身に染みて理解しています。社会インフラが弱ると「もう島には住めない」となり、さまざまなサービスや観光を維持する常住人口すら確保できなくなってしまう。AMXも弊社も、生活を運ぶ、命を運ぶという使命を持っています。隣県でもあり、地域航空会社同士で支え合うのは当然の務めだと考えています。

—— 地域社会にとって協業にはどのような意味があるのでしょうか？

島崎部長 ● JALグループは、国内はもちろんグローバルにも展開されており、多くの知見や幅広い経験をお持ち

安嶋社長（JAC） ● AMXのパイロットや整備士が新機材の訓練をされながら日常運航を維持するのに必要な要員を弊社から出向させました。また、新機材で事業を行うためのマニュアル作成・整備のお手伝いや、専門的なノウハウを必要とするさまざまな許認可を得るための書類の作成や手続きなどのお手伝いをさせていただきました。



AMX 吉村孝司社長

いるため、弊社単独の取り組みでは日常運航を維持しながら更新作業を同時進行できず、2015年夏から半年以上の全面運休が必要でした。天草市から福岡市までAMXを利用すると35分のところ、陸路では約3時間半かかります。弊社便が運休すると、ビジネスはもちろん、観光客の足もなくなり、大きな影響が出てしまいます。とりわけ、天草には福岡から通う医師が多くおられることから、地域医療体制を維持するため、県や地元市町の意向としても運航の維持が至上命題でした。

—— 具体的なにはどのような協業だったのでしょうか？

安嶋社長（JAC） ● AMXのパイロットや整備士が新機材の訓練をされながら日常運航を維持するのに必要な要員を弊社から出向させました。また、新機材で事業を行うためのマニュアル作成・整備のお手伝いや、専門的なノウハウを必要とするさまざまな許認可を得るための書類の作成や手続きなどのお手伝いをさせていただきました。

—— どうして資本関係のないAMXとこのような協業が実現したのですか？

吉村孝司社長 ● 機材更新に際しても、認可関係など技術的なサポートをいただくことで私たちもレベルを上げることができましたが、大事なのもにメリットがある関係をつくることで、私たちの努力が必要だと感じています。WinWinがキーワードです。人口減少社会において、地域の発展のためには観光が必要で、国内外からの交流人口を増やすには、まず地域が観光資源をきちんと提供する必要があります。それは地域のためでもあります。航空会社のためにもなります。天草は観光面でも非常に良いところで、観光客を引きつける豊富な水産資源などに恵まれていますし、そのPRなどを一緒にしていきたいと考えています。

—— お三方それぞれの今後の展望をお聞かせください。

安嶋社長 ● JACも来年ATR機を導入し、全く同じ機材を持つことにな

地域とともに



熊本県 企画振興部長 島崎 征夫

天草エアライン株式会社 代表取締役社長 吉村 孝司

日本エアコミューター株式会社 代表取締役社長 安嶋 新



JAC 安嶋新社長

ります。部品を共同で購入・使用したり、AMXの機材整備期間にJACの機材を貸し出したりするなど、双方にとってメリットのある協力関係をつくるのではないかと構想しています。この共通事業機の実現に向けて、少しずつ吉村社長と二人三脚で進めていければと考えています。天草も奄美も世界遺産登録を目指していますし、自治体や航空会社の枠組みを越えた広域連携ができればと思っています。

島崎部長 ● 地域航空会社間の協力関係が深まっていくことを県としても期待します。今回、新機材導入をはじめ、大きな役割を果たされた天草市、上天草市、苓北町といった地元市町とともに、それぞれが力を発揮できる良い連携をつくりたいと考えています。これからの地方創生には、地域内にとどまらずに外部の方の目も取り入れオープンマインドに展開していくことが重要です。地域の魅力がJALグループによってさらに輝くような連携を築くことにこれからも意を尽くしていきたいです。



生活の足として、地域の未来を支えるインフラとして